

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2022年5月NO.52

SMILES

<https://www.childfund.or.jp>



お姉さんに教わりながら自宅学習に取り組む
フィリピンの男の子

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

コロナ禍が生んだ
780日の
教育の空白

長期化するフィリピンの休校措置と支援活動

特集

コロナ禍が生んだ 780日の 教育の空白

長期化するフィリピンの
休校措置と支援活動



新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中で実施された学校の休校措置。その中でもひととき深刻な影響を受けているのがフィリピンの子どもたちです。

今回の特集では、フィリピンの休校措置の実態とチャイルド・ファンド・ジャパンの支援活動について、現地のチャイルド、ジョンのエピソードを交えながらお伝えします。

休校措置に苦しんだジョン

チャイルド・ファンド・ジャパンの支援地域の一つ、フィリピンのカビテ州(プログラム1035)。そこで暮らす15歳の男子ジョン。3人きょうだいの中で最年長のジョンは、母親の家事や両親の仕事を日々手伝い、料理も毎日こなしています。

フィリピンで15歳というと、ジュニアハイスクール(日本の中学校に相当)に通う年齢。ジョンも、チャイルド・ファン

ド・ジャパンの支援を受けながら中学校に通い続けていました。

「(コロナ禍前は)学校が午後から始まるので*、午前中は友達とバスケットボールをしたり、コンピュータショップに行き宿題をするための調べ物をしていました。学校へは必ず行っていました。友達もいるし、過ぎていく毎日を無駄にしたくなかったからです」とまじめな一面を見せます。チャイルド・ファンド・ジャパンが実施する、リーダーシップ研修などのグループ活動にもしっかり参加し、リーダーを務めることもあったといいます。

そんなジョンですが、勉強に大きな苦しみを抱えることとなりました。その理由が、新型コロナウイルスによる休校措置です。

*人数が多い学校では午前と午後の二部制にしている場合がある。



市場で野菜を売る両親を手伝うジョン

対面授業、2年間再開されないまま

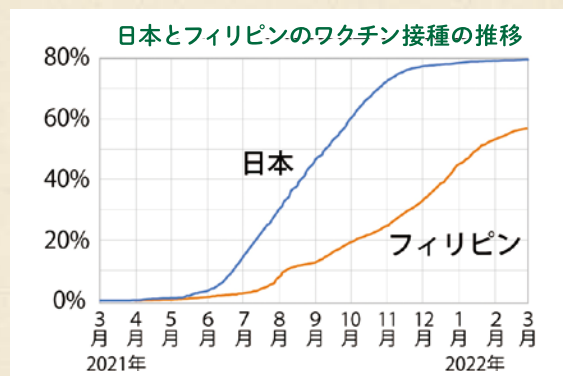
2020年3月。新型コロナウイルスの感染拡大にともない、日本では安倍首相(当時)から全国一斉の休校が発表されました。その後、2020年5月頃に段階的に再開されましたが、子どもたちは2~3か月にわたって自宅での学習を強いられました。

しかし、フィリピンの休校措置はこの比ではありません。同時期に開始された休校措置は、2022年4月現在に至っても、完全には解除されていません。実に780日以上にわたって子どもたちは学校に行けていないのです。

フィリピンがここまでの長期の休校措置を続けている理由

はいくつかあります。その一つがドゥテルテ大統領の判断です。大統領は、ワクチン接種が済むまで対面授業を再開しないという方針を示しており、CNNによると、教育省から学校再開の提案があっても拒否してきたといいます。

そして、肝心のワクチン接種のペースは極めて遅く、例えば、2021年11月と比較してみると、日本では2回目の接種完了率が70%を超えているのに対して、フィリピンは25%以下でした。ワクチンの供給量が十分でなかったこともあります。人々の副反応に対する不安も大きな要因です。



習っていない2次方程式も自分で学習

こうした背景から長期間の休校措置がとられる中、2020年10月から「モジュール学習」と呼ばれる自宅学習が始まりました。子どもたちが自宅で冊子形式の教材に取り組む学習形態で、冊子の受け取りと提出は、保護者が学校に出向いて行っています。

日本においても、2020年の休校措置中、学校からプリントが配布されて自宅で学習するといったことがありました。しかし、その多くは、それまでに授業で習ったものの復習・練習でした。

フィリピンのモジュール学習はそれとは異なり、「復習」ではありません。例えば、9年生(中学3年生)では、2次方程式、三角形の相似などを学びますが、これらを、子どもたちは冊子を読みながら、自分で学習するのです。

冒頭のジョンも、この冊子の教材に取り組んできました。しか

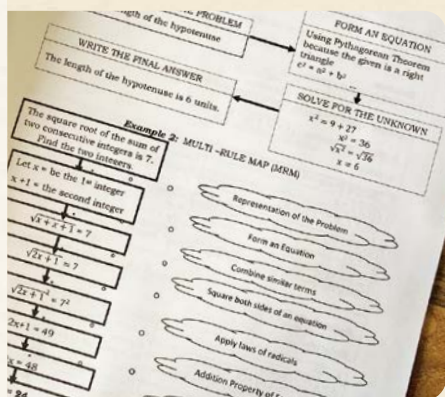
し、「対面授業なら先生にきちんと教えてもらえますが、冊子の教材で勉強するのはとても難しいです。特に数学は、たくさんXが出てくるし、計算も難しいので本当に大変です」と、自宅学習の苦しさを訴えます。

オンラインによる先生の指導も行われていないわけではありませんが、小学校では基本的に行われておらず、中学校・高等学校であっても、週に1回、数時間程度だといいます。

ジョンは、自分の携帯電話を持っていなかったため、親の携帯電話を借りてオンライン授業に参加しようとした。しかし、携帯電話のネットワークは不安定で、代わりに近くのWiFiにつなごうとしても、ロックダウンで外出が制限されていてつなぐことができず、オンライン授業にうまく参加できなかったといいます。

親も仕事でジョンをサポートする時間が十分にとれず、「8年生の学習がすでに難しかったのに、9年生はさらに難しくなりました。本当につらくて、提出できない教材が積みあがってしまいました」とジョンは語ります。

現地のスタッフからは「子どもたちには、先生による説明や具体例の提示などが必要です。ほとんど学べていない子どももいるのではないかと心配です」といった声も聞こえています。



9年生の数学の冊子の一部

学校生活も友だちとの思い出も失われた

フィリピン政府は、2021年11月15日、対面授業の試験運用を開始しました。チャイルドが通う学校も、一部対象となりました。

試験運用の結果を受け、2022年2月には教育省から段階的な学校再開の方針が示されましたが、いまだ全面的な再開には至っておらず、自宅学習が続いています。

インタビューの中でジョンは、学校で友だちと過ごしていた頃のことを懐かしみながら、こんなエピソードを話してくれました。

「学校では友だちとよくふざけあっていました。友だちが僕のいすにガムをくっつけて、気づかずに座ってしまったこともしました。」

異例の長さとなった教育の空白は、子どもたちから学習の機会を奪っただけではありません。友だちとの思い出をつくることのできる大切な時間も奪ってしまったのです。



試験運用が実施された小学校

子どもたちとともにコロナ禍の課題に取り組む チャイルド・ファンド・ジャパンの支援

1

学びを支える支援

在宅のまま学校から与えられる教科の冊子教材を自分たちで学ぶという方法は、多くの子どもたちに学ぶ難しさを感じさせています。仕事のために親が勉強を見る時間がなかったり、教科の内容が良くわからないために十分に教えられなかったりする家庭も多い中で、チャイルド・ファンド・ジャパンの事業ではスタッフが以下の支援を行っています。

- 子どもたちのチャットグループをつくり、子ども同士でわからないところを相談し合えるような仕組みをつくる。
- 親たちのチャットグループもつくり、家庭学習を指導する上での問題を話し合ったり、対応策を共有したりして対応できるようにする。学校と緊密に連絡を取り合うことも支援する。
- 毎週の冊子学習の結果を、親が学校にきちんと届けているかを確認し、問題があれば解決のための手助けをする。
- 自宅学習に困難を抱えている子どもや家庭があれば、これを先生に伝え、特別に対応してもらえるように働きかける。
- 携帯電話がないためにチャットに参加できない子どもや親のために、カビテ州の事業地では青少年グループが募金活動を行い、携帯電話会社にかけあって値引きしてもらった携帯電話を10人の子どもに配布した。

コロナ禍により子どもたちの移動が制限される中、携帯電話などで子ども同士、親同士の「つながり」を確保できたことは、子どもたちが学習を効果的に進めるうえで大きな意味がありました。通常の対面授業と比較すれば、内容の理解という面で不安を感じざるを得ない自宅学習ですが、上記のような支援もあり、この2年間でチャイルドの進級率は以前と大

きく変わってはいません。

前ページのジョンに話を戻すと、2021年の途中で、自宅学習を続けるのを諦めてしまいました。はじめは母親にも相談せず、先生に自分でそのことを伝えたというジョン。まじめさゆえに、母親には言い出しづらかったのかもしれませんが、ジョンは、スタッフの声掛けもあり、翌年度再度学校に登録。今は気持ちを切り替えて学習に取り組んでいます。



2

子どもとして成長するために必要な 安心した生活や教育環境の確保

学校に通えないことで友人との毎日の交流が閉ざされ、孤立を感じる子どもたちもいます。もちろんウイルスの脅威に対する不安もあります。

そうした中で不安や心配事を相談できるように、スタッフはチャットや電話で、可能ならば子どもたちの家庭に赴き、直接面談してカウンセリングを行ってきました。

また、子どもが安心して生活するには親が落ち着いて生活できていることも大切です。そのため、親に対するカウンセリングも実施し、子どもたちの不安にどのように対応すればよいかについて、オンラインの研修を行っています。



スタッフが家庭を訪問し子どもたちをケアする様子

コロナ禍で、子どもたちのより良い明日を守るために

すべての社会活動を新型コロナウイルスとともに行っていかなければならなくなった今の時代の中で、「子どもたちの教育を保障すること」、「子どもたちが子ども時代の楽しい生活の思い出をつくっていけるようにすること」、そのために私たちは何ができるのでしょうか。チャイルド・ファンド・ジャパンの事業では、現地のスタッフが子どもたちとともにそのことを考え、試行錯誤を重ねながら、日々子どもたちへの支援に取り組んでいます。

国連が2030年までに達成しようと目指している「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち、目標4「質の高い教育をみんなに」と、目標16「平和と公正をすべての人に」の実現のためには、子どもたちへの教育を保障していくことが欠かせません。チャイルド・ファンド・ジャパンはこの目標達成に向けて、子どもたちの教育を守るために支援を続けていきます。



ウクライナ緊急支援

戦禍の中の子どもたちと家族を支え続ける

2022年2月に始まったロシア軍によるウクライナへの侵攻。1,000万人を超える人々が住む場所を追われ、避難を強いられています。チャイルド・ファンドでは、皆さまからのご支援に支えられ、ウクライナ国内外での緊急支援を行っています。

※以下、4月下旬時点での報告です



避難所になった
フィットネスジムで過ごす人々

ウクライナ国内での支援を迅速に開始

チャイルド・ファンド・アライアンスのメンバー団体の一つ、チャイルド・ファンド・ドイツ(ChildFund Deutschland)は、今回の侵攻が起こる以前から、ウクライナ国内において、現地協力団体と連携して、子どもたちの支援を行っていました。そのため、信頼のおける現地団体との連携体制が確立されており、他の支援団体の多くがウクライナ国外の国境沿いで支援を行う中、国内での支援活動を迅速に始めることができました。

現在はアライアンスのメンバー団体WeWorld(イタリア)も国内での活動に協力し、支援をさらに拡大しています。

具体的な活動としては、食糧・生活必需品、乳幼児食品・おむつなどの配布をはじめ、避難所整備、現金支給などを行っています。日々目まぐるしく変わる状況の中、支援対象人数を正確に把握することは困難ですが、把握ができていなくても7,500人以上に支援を行いました。

子どもたちや家族の心のケアも課題に



子どもたちは避難所で遊びながら
気持ちを落ち着かせている

離れたのですが、女の子は、自分の視界から母親がいなくなっただけで泣き出して、パニックになってしまいました」と話します。

一方、現地では子どもたちや家族の心のケアが課題の一つとなっています。現地で行うWeWorldのスタッフは「避難所で出会った女の子が印象的でした。母親が私と話をするため、少しの間、子どものそばを

不安や恐怖に苦しんでいるのは子どもだけではありません。「侵攻が始まった当初、人々は何も考えることができず、とにかく逃げることに必死でした。今は避難所などで様々なことを考える時間ができ、先行きが不透明な状況に対する恐怖や不安が人々をおそっています」とスタッフは話します。

現地では、こうした子どもたちの心をケアするため、オンライン・オフラインでのレクリエーションのセッションを行っています。大人たちに対しても、カウンセリングを行ったり、様々な情報提供を行って不透明な状況への不安をやわらげたりするなど、支援を行っています。

モルドバでの国外避難民の支援もスタート

3月下旬からはモルドバにおける国外避難民への支援も開始しました。ウクライナ国内での支援同様、食糧や生活必需品の配布、心のケアなどを行っています。特に国外では、さらに遠方へと避難するための現金支給や、モルドバで一定期間生活できるようにするための言語教育やソーシャルファーム[※]の紹介なども行っていく予定です。

また、現在ウクライナでは、18~60歳の男性が国外へ出ることが禁じられており、国外に避難する人々の大半は女性と子どもたちです。男性がいない中での避難は、様々な形での暴力、人身売買などのリスクがあり、「子どもや女性の保護」も大きな課題となっています。現地では、こうしたリスクを保護者に伝える研修なども行っています。



支援物資のセットを
受け取る子どもたち

※障害をもった人など働く場所がなかなか見つからない人を受け入れて雇用する企業や団体

ウクライナ緊急支援に
ご協力ください

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、引き続きウクライナ緊急支援へのご寄付を受け付けております。皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



ネパールの新しい地域

Nepal
ダーディン郡

ダーディン郡で 支援活動を開始しました!

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、2022年4月より、ネパールのダーディン郡で新たに支援活動を開始しました。ここでは、ダーディン郡の状況や予定している支援活動についてお伝えします。



ダーディン郡って どんな地域?

ダーディン郡は、ネパールの首都カトマンズから西へ約90kmに位置する大阪府と同じくらいの面積の地域です。ヒマラヤ山脈に属する山々があり、標高7,000メートルを超える高地もあります。

働く人の約9割が農業関連の仕事に従事しており、主に穀物や豆類などを栽培しています。しかし、乾燥し痩せた農地も多く、かんがい設備も十分に整っていないため、十分な収穫量を得られないことも少なくありません。また、栽培できる作物の種類も限られ、換金率の高い作物の栽培が難しいといった実情もあります。一人当たりの平均所得は一日約2.7ドルとなっており、ネパール全土の平均と比べても低く、貧困ラインより下の水準で暮らす人々も多くいます。安全な水へのアクセス

がない人も15%以上いて、栄養不良の子どもたちも少なくありません。

教育面でも様々な課題があります。小学校（1年生から5年生）において、およそ8人に1人にあたる約13%が中途退学してしまっています。留年も14%以上にのぼります。親の教育に対する関心が低いことや、学用品や教材等を購入する余裕がないこと、子どもが家の手伝いをしなければいけないことなど、様々な要因が関係しています。



教育支援で 子どもたちの 未来を開く

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、こうした課題を抱えるダーディン郡において、教育面を中心に支援を行っていきます。具体的には、スポンサーシップ・プログラムを通して、学用品の支給、教育の質を向上させるための先生への研修やモデル校の視察、学校運営委員会の能力強化等を行います。また、「子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト」の対象地区もダーディン郡へと移行させ、教室やトイレ、水飲み場の整備などを行っていきます。

現地ですべての活動を担うのは、チャイルド・ファンド・ジャパンのネパール事務所と、プラヤス・ネパールという現地協力NGOです。プラヤス・ネパールは、教育・健康・生計支援の分野で、子どもや女性、そして社会的に不利な立場



スポンサーシップ・プログラムのオリエンテーションの様子

にいる人々の支援活動などに実績があり、地域の人々の経済的、社会的な生活向上を目指した活動を行ってきたNGOです。2022年よりチャイルド・ファンド・ジャパンと協働してダーディン郡での支援活動を行っていきます。

これまで活動を続けてきたシンドウパルチョーク郡では、皆さまからの温かいご支援によって、学校への出席率が80~90%台へ向上する、評価基準をクリアした教員の割合が47%増えるなど、様々な成果を上げることができました。子どもたちが安心して学校に通うことができる環境、そして、今後も地域の人々自身でそれを維持・継続できる体制が整ってきています。チャイルド・ファンド・ジャパンでは、こうした成

果を受け、段階的にシンドウパルチョーク郡から、より支援を必要としているダーディン郡へと事業活動を移行していきます。皆さまからの引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。



ネパールで建設中だった校舎が完成し、 新しい校舎の建設が始まりました！



新しい教室で学ぶ子どもたち

本プロジェクトは3月から、「少数民族などの子どもの未来を開く子どもにやさしい学校づくりプロジェクト」と名称を新たにし、ダリット(ネパールに存在するカースト制度に属さない、不可触民とされる人々)や少数民族が多く暮らすゴルカ郡において、新しい校舎の建設をスタートしています。これまで同様、耐震性の高い校舎を建設するとともに、先生への研修などを通して授業改善も行い、社会的に不利な立場の子どもたちが質の高い教育を受けられるよう、環境を整えます。

皆さま、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

日本NGO連携無償資金協力と皆さまからのご支援で進めている、ネパールの学校建設プロジェクト。昨年2月より建設を進めていた校舎は、今年2月に完成し、2階建て8教室の新しい校舎で、子どもたちが楽しく勉強をしています。

子どもたちからは「これまでの学校は屋根がトタンでできていたので、雨の日は雨漏りがひどい上、屋根に打ちつける雨の音で、先生の声が聞こえず、授業に集中できませんでした。新しい校舎は天気に関係なく勉強に集中できるので、とってもうれしいです!」と、喜びの声が届いています。



ゴルカ郡の現在の学校の教室



フィリピンで発生した台風・洪水被害への 緊急支援を行いました

2021年12月16日～17日、台風22号(台風ライ)がフィリピン中部のビサヤ地方を直撃しました。激しい雨と暴風に見舞われ、建物の倒壊、地滑り、洪水などが発生。フィリピン政府の発表によれば死者は409人にのぼり、78万人以上が影響を受けました。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援している西ネグロス州(プログラム1024)、ギマラス州(1030)、イロイロ州(1041)、東ミサミス州(1048)で被害が大きく、家屋倒壊や避難所への避難、食糧や衛生用品の不足、教科書や学用品の損失といった影響がありました。



配布した学用品(クリスマス時期だったため、プレゼントのようにパッキング)



支給した資材を活用して家屋を再建

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、緊急支援として、67世帯にお米を配布、74世帯に家屋再建の資材を支給、チャイルドには学用品配布(29名)や、衛生用品購入費500ペソ(約1,100円)の支給(29名)といった支援を行いました。

地震や台風などの自然災害が多いフィリピン、ネパールでは、防災能力の強化が重要です。これまでも、防災に関する啓発や研修、緊急持ち出し袋の支給などを行ってきており、支援地域の人々の防災に対する意識や能力が向上してきています。こうした支援によって、今回の台風でも、被害が拡大する前に避難所にきちんと避難するなど、迅速に行動をとることができました。

ご報告

ベトナムで母子手帳の配布とガイダンスを行いました

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、ベトナムにおいて「母子手帳で守る お母さんと子どもの健康プロジェクト」を実施しています。

政府による保健医療改革や経済成長などによって、保健指標の改善が見られるベトナムですが、貧困層や地方住民、少数民族の指標は全国平均に比べて極めて悪く、格差が課題となっています。このプロジェクトを実施しているホアビン省は、山岳地帯の少数民族が多く暮らす地域です。



本プロジェクトでは、母子手帳を活用し、ホアビン省における質の高い母子保健サービスへの公正なアクセスを目指しています。

昨年10月に印刷した約7,000部の母子手帳は、3ヵ月ごとにヘルスセンターへ在庫補充され、ヘルスセンターに妊娠届けをしに来た妊婦さんたちを対象に配布されました。手帳には、妊娠してから子どもが5歳になるまでの成長を記録することができ、子どもの成長や健康状態を把握することができるようになってきました。プロジェクトでは、配布とともに、妊婦さんたちにガイダンスも行い、母子手帳の使い方と保健・衛生の理解を深めてもらっています。プロジェクト実施後の結果として、プロジェクトを実施していたキムボイ県とタンラック県の11の市区町村と各病院において、母子保健サービスの質が向上していることが報告されています。

ご報告

OSEC(子どもへのオンライン性搾取)のセミナーを開催しました!

2022年2月19日、セミナー「OSECを知っていますか? 子どもたちにおよぶオンラインでの性搾取」を開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

セミナーでは、劇団どろんこ座さんのご協力のもと紙芝居を上演していただきました。ある女の子が知り合いの男性に脅されて、ビデオ通話の中で服を脱ぐように言われてしまうという、実際に起こった事例をもとにした紙芝居です。

紙芝居のあとは、青山学院大学の学生さんから事例の解説や、OSECにはどのようなものが含まれるかも解説し

てもらいました。昨今では、グルーミング(性的な目的のために、子どもにやさしく接し、信頼関係を築くこと)という手法も大きな問題となっていることなどを解説してもらいました。

さらに、国内外の法制度や日本における被害者ケアの状況なども取り上げ、まだ日本において認知度が低いこの問題について、多くの方にお伝えする良い機会となりました。

並行して、子どもへのオンライン性搾取をなくすための署名活動も実施し、多くの方にご協力いただきました。この

場を借りて、御礼申しあげます。集まった署名は日本政府に提出し、「子ども家庭庁」設置、「子ども基本法」制定などの子どもに関する政策の中で、OSECをなくす取り組みがより強化されるように求めます。



Ch^{id}Fund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

Ch^{id}Fund
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンだより **スマイルズ SMILES**
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
理事長/長山信夫 事務局長/武田勝彦
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: inquiry@childfund.or.jp
URL: https://www.childfund.or.jp/

2022年5月発行
(デザイン)
モスデザイン研究所
(印刷)
吉原印刷株式会社